

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891600039		
法人名	特定非営利活動法人 淡路島シャロームの会		
事業所名	グループホーム くるま花木		
所在地	兵庫県淡路市久留麻236		
自己評価作成日	令和2年3月3日	評価結果市町村受理日	令和2年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	令和2年3月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.日々の暮らしの中で、音楽療法・赤ちゃん療法等、利用者個々の思いを活かした支援を心がけている。
2.ホームの中庭には季節の花が、背後の田畑には米や野菜が植えられ、四季を通じての楽しみとなっている。
3.食事は、隣接する田畑でとれた新鮮な食材を使って職員も一緒に食事をとるオープンで家庭的な雰囲気づくりを心がけている。
4.散歩や行事などの日常的な外出、家族や知人の訪問、地域ボランティアの訪問など、利用者を地域社会の一員として支援することを心がけている。
5.平日にスタッフが子連れ出勤し入居者様と一緒に生活リハビリやレクリエーション食事などをし、利用者様職員の癒しや生きがいになっている。

事業所は市役所の支所に隣接し、近くには毎日の散歩コースである寺社がある。利用者と同世代である理事長の実父が、毎年、丹精込めた収穫物を届けて栄養面から利用者の健康を支えている。背中合わせに並んだキッチンを中心に、大小の2ユニットがL字型に繋がっている。利用者も職員も、ユニット間の仕切りの存在を忘れるほど一体的に毎日行き来をしている。職員はお互いに調理を分担したり、広いほうのリビングで歌を歌ったり、2ユニットが一体となって暮らしを楽しんでいる。床暖房が施されたクッション入りの柔らかい床材は、転倒時の怪我から利用者を守っている。「家に帰りたい」という利用者には「帰りたいですね」と職員は優しく同意して受け入れることで利用者が納得して落ち着くのを待っている。淡路島の温暖な気候に包まれた事業所は、利用者が願う終の棲み家となることを目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念についての説明を同じ方向を向く様にしている。 問題が起こる度に会議を開き理念に添っているかを考えることで方向を立て直して理念に立ちかえるようにしている。	玄関には法人の使命を額装し、事務所には事業所の理念を掲示している。開設時のメンバーで決定した理念であり、中でも「利用者中心」であることを介護の基本と考え、職員が黒子になって利用者の暮らしを支える事業所を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひまわり作業所が出張喫茶に来ている。 初詣・近くのお寺・広場へ散歩等に出掛ける と近隣地域住民との交流がある。 地域のお祭りなどに利用者様と一緒に参加し職員が間に入り近隣の方々とかかわりが持てるように働きかけている。	近隣の作業所が月1回出張喫茶で来訪しており、絵本を読んだり歌を歌う等楽しい時間を過ごしている。隣接する市役所の支所で催されるイベントでは、利用者が古くからの知人と再会することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者および入居希望の家族からの相談に乗るなどして、持っている知識、経験を地域に還元している。 実習生や研修生を積極的に受け入れ、認知症ケアの知識を広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自立支援への取り組みを利用者家族様毎回一組発表している。会議では、出席者からの意見や要望を頂き、外部の考えも柔軟に取り込む姿勢を持っている。また評価の結果と課題についての取り組みや現状の報告を欠かさず行っている。	運営推進会議には、利用者、家族、市、社協、地域包括、地域住民等の出席がある。毎回、利用者の現状報告をしており、出席者にとっては利用者本人の声を聴く機会にもなり、有意義な会議となっている。家族への議事録の送付が出来ていない。	個人情報に配慮した議事録を作成し、全家族に配布されてはどうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所での取り組みを伝えると共に市の担当者の方にいつでも相談できるようにしている。	市担当者は交替で運営推進会議に出席しており、管理者とは密な関係性を築いている。理事長が全国組織のグループホーム協会県支部の副支部長を務めており、活動に参加している。運営推進会議に知見者として他事業所の出席がない。	市担当者に、近隣の事業所との仲介役を務めてもらい、他事業所の運営推進会議にお互いに、出席してみたいか。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員が入る度に、身体拘束をしない教育を行っている。職員もその意義を十分理解して、束縛の無いケアを実践している。玄関のドアは日中開錠している。帰宅願望時玄関が開いてる事で庭に出、不穏が解消される。スタッフが寄り添い声掛けをしホームへ戻る。	身体拘束適正化委員会は管理者、ケアマネジャー、計画作成担当者、リーダーで構成されており、3か月に1回開催され議事録は整備されている。現在、退院後の安全処置として就寝時の4点柵の使用があるが、検討を重ねながら様子を見ているところである。玄関の開錠に取組んだ結果、現在9時から18時までの開錠が可能となった。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花木

評価機関:特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道があれば、会議で取り上げ問題を所内で話し合う機会を設けている。特に、言葉や態度等による心理的虐待が見過ごされることがないように気を付け、事業所内での意識も高まっている。	新聞記事やグループホーム協会からの情報を教材にして研修を実施し、職員は研修レポートを提出している。レポートの内容を分析し、今後の支援に反映させていくつもりである。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用している方もおられたので後見制度についての事業所内研修も行ってから権利擁護や成年後見制度についての理解を深めている。新入職員については、実施できていない。	制度利用者はいないが、最近、利用を検討した利用者があった。ネット等からパンフレットをダウンロードして活用していくつもりである。新入職員については研修を行う予定である。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項について説明し、同意を得るようにしている。とくに、入院や看取りなど事業所の対応可能な範囲について説明し、納得してもらったうえで契約を結ぶようにしている。	契約の際は管理者とリーダー等の複数が説明に当たっている。家族からは退去要件に関する質問が多い。1か月以上の入院となった場合には、様子を見ながらその後の相談に乗ることを案内している。看取りについての指針が整備され、主治医の介護指示書と同意書を用意して対応している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは生活を共にする中で思いや要望等を把握するように心がけている。家族とは来訪時や電話、スタッフに伝え話し合う機会をもち、出された意見や要望を運営に反映させるよう努めている。	現在、家族会は開催していない。運営推進会議に出席している家族からいろいろな意見が出て、直接地域包括に質問することもあるが、事業所運営に反映するような意見は少ない。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各委員会活動を通じて、職員が事業所の運営や重要な決定に直接関わる機会を設けている。	職員からは申し送りや懇親会等で意見を聴く機会を設けている。時間外に作業をしている職員が、サービス残業にならないように配慮している。。利用者の入居状況による事業所運営への影響について、職員に話をすることもある。記録に費やす時間を減らすためにタブレット端末の導入を進めており、現在試験運用中である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も食事に参加し、職員の日頃の努力や勤務状況を把握するとともに、各自がやりがいと向上心を持って働けるような環境整備に努めている。自主残業等も手当てをつけるようにしている。個別で話しやすい雰囲気を作っている。			

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、外部の研修に積極的に参加するように推進している。とくに、教育研修活動の一環として、「キャリアアップ助成制度」を創設し、初任者研修等、資格取得を勧め、多様なサービスに対応できる職員の育成と定着を図っている。ネット等で見られるようにし、職員全員で新しいケアの方法を共有しながら、実践に活かせるようにしている。職員間で指導しやすい雰囲気を作るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での実習や反対に実習生の受け入れを積極的に行っており、報告と共に学んだことを職員にフィードバックしている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談ではご本人の希望や不安を理解するようしている。職員本人の話をゆっくり聴く時間をとり安心できる関係を築くように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等との関係を大切にし、事業所としてどのような支援が出来るか、電話や面会で話し合いを十分に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思い、状況を見極め、早急な対応が必要な場合には、デイサービスの利用などを含めた柔軟な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を理解すると共に、気遣いのない自然な生活が送れるような関係を大切にしている。食事お茶も同席している。職員と利用者様が介護する立場とされる立場等一方的な関係になるのではなく人生の先輩として困っている事を手伝っていただいたりして助けて頂いている。			

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、必要時には連絡をとり、共に支え合う姿勢をとっている。ほとんどの家族はそれに応じてくれている。変化があった時には家族様に報告や相談をするようにしている。いつでも面会に来て頂けるようにしている。			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のもっている思いや、こだわりの場所等、話や写真で話題にして、穏やかに過ごしていただく支援をしている。また近隣のスーパーに買い物と一緒に出かけている。		退院後ADLが下がった利用者に故郷の話をする意識がはっきりすることがわかり、話題にとり上げながら支援している。季節ごとに絵手紙を送ってくれる家族があり、利用者の同意の元にリビングに掲示している。船で仕事をしていた利用者が、窓の向こうに見える海を眺めていることが多く、職員も一緒に眺めながらお喋りを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい関係の利用者同士、近くの席を用意したり、難聴の方や男性の利用者等は職員が中に入り、孤立しないよう人と人の関わりを大切にしている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族と連絡をとる機会をもち、その後の様子を伺うようにしている。お花を届けてくださる家族様もいる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で出来ること、得意なこと等本人本位で把握するよう努めている。表情などから気持ちを読み取るようにしている。		塗りの好きな利用者、歌が好きな利用者、部屋で相撲のテレビを観たい利用者等、それぞれの落ち着ける時間を大切にしている。発語の少ない利用者も、表情やしぐさから想いを推し量り、職員間で情報共有することで統一した支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人の理解につながっている。この取り組みは大変重要なことと考え利用者様本人も家族様や地域の人の力を借りながら継続的に行っている。			
25		○暮らしの現状の把握	毎日の観察、引継ぎ等で、個人の変化を職員全員で共有するようにしている。利用者1人ひとりについて支援表を作成し、情報を共有しながら実践に活かしている。			

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月度に一度、変化があった場合はその都度更新認定区分変更申請後はモニタリングを行いケア会議を実施、介護計画を作成している。	家族の要望は来訪時や電話で聴き取り、6か月に1回モニタリングを行い、介護計画作成に繋がっている。状態や区分変更時にはその都度、計画を変更している。日常の記録を随時、タブレット端末に入力することで、すべての職員がモニタリングに関われるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をタブレットに入力し出勤時スタッフが確認し、それに伴い引継ぎを行い必要に応じて新しい介護計画に取り入れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら、通院、帰宅等本人のニーズを優先したり、入居希望の方で空きがない場合、入居までの間、デイサービスの利用を勧めるなど、その時々に応じて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお寺の境内へのお花見や散歩、コンサート等への参加を通じて、地域の方々と触れ合う機会を持つようにしている。また、地域のボランティアの訪問等によりや園芸・音楽を楽しむことができる支援をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよう、通院や往診をしてもらっている。 体調の変化や医療情報は、全職員が共有できるようにしている。 通院支援については、事業所と家族の役割分担を決めている。異常が認められる場合はすぐに訪問看護、主治医に連絡を取り指示を仰ぎ重症化しない様に柔軟な対応をしている。	かかりつけ医の選択は自由であるが、協力医療機関による定期的な訪問診療と往診が可能であり、利用者全員がかかりつけ医にしている。皮膚科や眼科などの他科受診の場合、原則として家族の付き添いで通っている。かかりつけ薬局を複数にすることで、多剤大量処方へのチェックを図っている。事業所として訪問看護事業所と連携することで日常の健康管理に努めている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花木

評価機関:特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、日ごろの健康管理や状態変化に応じ24時間支援を行い、適切な医療につなげている。体調変化があれば、些細な事でも連絡表ノートに書き込み、看護師の訪問時に確認できるようにし、対処している。24時間連絡が取れるようにしている。			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する必要な情報を医療機関に提供するとともに、家族や医療機関と密接に連携を取りながら、本人の速やかな退院に向けた支援をしている。入院時もスタッフが面会し、ホームの話などをして、関わりを途切れられないようにしている。	転倒からの骨折や内科系疾患によって、毎年5名程の入院がある。入院先の医療機関とは密な関係性を築いており、入院中は管理者、ケアマネジャー、職員が訪問している。地域連携室と情報交換しながら、可能な限りの早期退院を支援している。入院中の居室確保期間は、契約時の書類に明記していない。		入院中に居室を確保しておける期間を、重要事項説明書に明記されるようお勧めします。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り指針を整備し、入居時に本人や家族に説明している。ターミナルケアについては、本人や家族の意向をくみとりながら、家族や医療機関、かかりつけ医と密接な連携を図りつつ、チームで支援する取り組みを行っている。	毎年、複数名の利用者を看取っており、職員にとっても不安材料はないと管理者は考えている。利用者が看取り期に入った時点で、主治医を交えて看取り計画を作成する中で、事業所として出来ること、出来ないこと、訪問看護と契約すれば一定の医療的ケアが可能であることを家族に説明し、その意向にそって支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等は訪問看護、かかりつけ医と連携し対応している。消防署の協力を得て、毎年、応急手当、心肺蘇生などの研修を定期的実施し、緊急時の対応ができるようにしている。また、離苑等の緊急時に備えて、緊急連絡網を整備している。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方、消火設備の点検などを定期的実施している。消防署及び近隣住民への自動火災通報体制を整備し、地域との協力体制を整備している。避難所として、隣接のケアビレッジへ避難場所としている。	主として火災発生を想定した訓練を毎年2回実施しており、その内1回は消防署が立ち会い、指導を受けている。事業所は平屋建てであるが、津波が迫った場合でも時間的な余裕があり、併設事業所の2階へ垂直避難することになっている。防災備蓄食糧と水は約2日分を確保している。夜間想定訓練が実施出来ていない。非常持出しファイルの準備はしていない。		職員が手薄になる夜間を想定した避難訓練を、隣接事業所と合同で実施されたらどうか。非常持出しファイルの準備をお願いします。

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との会話は敬語を基本としているが、一人ひとりの生活歴や状況に応じて地元の言葉を使うなど、声かけに配慮している。 トイレ誘導は、「あちらへ一緒に行っていたけますか」等の声かけをしている。	利用者への呼び掛けには、さんを付けるなど、丁寧語を使うよう指導している。中には、親し過ぎる口調になる職員もおり、管理者は後で職員を呼んで注意している。昼間にオムツを交換する場合は、居室で換気をしながらケアしている。肌着への記名は、内側のタグにするよう家族にお願いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の様々な場面において、利用者が意思表示し、自分で決定出来るような声かけを行ったり、意思表示が難しい場合でも表情や反応を見ながら出来るだけ自分で決め、一人ひとりが納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に意思決定して頂き、判断が難しい事は職員が支援する。その日の体調や様子を見ながら、本人のペースに合った生活が出来るよう支援している。無理強いしない様一旦時間を空けてかかわる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、自分で選んだ好みの服を着てもらえるように、見守りや支援を行っている。 出張理美容院では、本人の希望に合わせてカットしてもらっている。 訪問:理容室1件 美容室1件		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、隣の田畑や中庭でとれた季節の野菜を食材としたメニューを取り入れている。 利用者と職員と一緒に調理から食事、後片付けまで楽しく関われる家庭的な雰囲気づくりを心がけているが重度化しているため一部の方となっている。職員と利用者が同じ食卓に付いて一緒に食事をとっている。	ほぼ全員の職員が交代で調理を担当している。事業所周辺で法人が耕作している田畑から収穫される米、大根、白菜、ネギ、玉ねぎ、レタス、ブロッコリー、ジャガ芋、西瓜などが食卓を彩る。利用者は重度化が進んでいるが、テーブル拭きや食器洗いなど、出来る範囲で手伝っている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関:特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日記録し、一人ひとりの咀嚼・嚥下能力に合わせて食事を提供している。本人の状況や好みに合わせて食事の工夫をしている。イレウスの方がいるので禁止の食品をはずしたり代替の物を提供している。 水分量が不足がち方に対しては代替の飲み物を提供するなどして出来るだけ水分量を確保出来るように支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士に来て頂き利用者個々の歯磨き指導を受け日々のケアに活かしている。利用者に合わせた声かけ、介助を行い口腔内の清潔保持や嚥下障害による肺炎予防に努めている。毎食後口腔ケアをしている。			
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導によりトイレで排泄できるよう支援している。尿もれ予防体操や散歩等で筋力を維持し、自尊心や不安に配慮し、まわりの人に気付かれないよう、そっとトイレにお連れしている。 安眠確保の為パットの工夫をしてなるべく起こすことはしない尿意のある方は誘導。	日中にオムツを使用している利用者もあるが、ほとんどがリハビリパンツを使用している。歩行が困難な利用者も、職員に見守られながらトイレへ行って排泄している。立位を保つ運動を兼ね、トイレで2回程屈伸運動をしている。便秘気味の利用者には、不適切な食材を避ける等の工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために食物繊維と水分補給を心がけている。毎日のラジオ体操や散歩でも、水分補給を徹底し便秘の予防に取り組んでいる。また排便の回数・量を毎日記録し、把握するようにしている。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回程度を基本としているが利用者様本人の体調・意思を優先し入浴支援を行っている。本人の好きな話や羞恥心に配慮しながらゆっくりと入浴を楽しんでもらえるようにしている。	入浴は基本、週3日の午後としているが、利用者の状況や希望によって柔軟に対応している。できるだけ同性介助に努めており、5名弱の利用者には2人介助で対応している。浴槽は腰かけ付き浴槽であり、一度腰かけてから身体を回して浴槽へ入ることが出来、浴槽を跨ぐ必要が無いので利用者の安全が図れている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関:特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外にリビングや座敷、ソファ等で心地よく休んで頂ける様に配慮している。個々のリズムに合わせて昼寝をしたり、日光浴や運動で体を動かし心地よい眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬に関しては、写真付きの説明書を綴じていき、いつでも職員が確認できるようにしている。また服薬の変更の場合は職員引継ぎノートに記入し申し送り時に確認し共有している。誤薬防止の為、服薬の際は表示(氏名・日付・服薬時)を必ず利用者と一緒に確認し服用も最後まで見届けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花や塗り絵・歌・読書、嗜好品など、趣味やたのしみを続けられる様に支援している。庭の草引きや食事前後のテーブル拭きや食器の片付け洗濯物干しやたたんで頂く等、利用者様の能力に合わせてお願いしていく。社会的な役割を果たして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、中庭に出て歌レクをしたりスタッフや家族との買い物を楽しみにしている。歩行が長くなると負担になる利用者様にもケアビレッジに設置された自動販売機にジュースを買いに行くちょっとしたお出かけも増えている。	建物周りのテラスや併設事業所との間の広い中庭など、利用者は事業所の周りだけでも十分に気晴らしが出来る環境である。併設事業所にボランティアが来訪する際には、出掛けて行ってダンスなどを楽しむ機会もある。家族が付き添って、外食や買い物へと出掛ける利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で自由に使えるお金を預かっており、そのことを常時、利用者に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が間に立ち、自由に出来るように配慮している。		

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間を設け、リビングでは自分の椅子と共にソファーやリクライニングチェアで好みに過ごすことができる。床暖房で温かい。通風や採光にも恵まれ、食卓等に飾られたいとりどりの生花で季節を感じてもらえるよう配慮している。座敷で寝転んで新聞を読んだり寝られる方もある。	全ての床がクッション入りで、リビングには床暖房が施されている。床から天井までの大きな窓が中庭に面しており、リビングは明るい光で満ちている。平屋建ての中の2ユニットの間が自由に行き来できるので、廊下とリビングが格好の歩行練習の場となっている。ホーム長が弾くピアノ、畳の間の墨痕鮮やかな大きな書や雛飾りが、施設らしからぬ雰囲気醸し出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いを優先して、穏やかに過ごせる場所を時々に応じて用意するようにしている。リビングのソファや庭のベンチ等も用意している。床の間には花を生けたり、なるべく家に近いように、畳の小上がり、フローリング床、台所も住宅用、風呂もユニットバスで個浴としている。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮	なじみの品や家具仏壇等を持参(持ち込んでもらい)配置し、居室で落ち着ける工夫をしている。	居室の前に表札を掲げず、2色の色違いのドアが目印になっている。収納量の大きい作り付けのクローゼットがあるので、室内は綺麗に整頓され十分な広さがある。利用者の状態によっては、体位交換や空気圧の調整が可能なベッドが置かれている。利用者は、自分の短歌集や整理ダンス、小机、遺影を置き、それぞれにとって過ごし易い空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置を分かりやすくして、安全に移動できるよう手すりを設けている。台所とリビングは隣接し職員と一緒に調理できるようになっている。洗濯物等を干せる人はハンガーやピンチを使って干し外へ出せるようにしている。居室が分かりにくい方には入口に表札や花飾りをつけて目印としている。			

(様式2)

事業所名:グループホームくるま花水木

## 目標達成計画

作成日: 令和 2年 7月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	運営推進会議の議事録を家族へ送付していない。	個人情報に配慮した議事録を作成し、全家族に配布する。	7月30日の会議分より送付できるようにする。 コロナ禍の中、面会もお断りし運営推進会議も中止となり目標達成は非常に難しく、コロナ収束後に再度取り組みできるようにしたい。	1か月
2	33 (16)	入院中の居室確保期間が契約時明記していない。	入院中の居室確保期間を重要事項説明書に明記する。	看取りに関する説明書には明記していたが、重要事項説明書に明記するようにする。 重要事項説明書に記載済。	2か月
3					月
4					月
5					月

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )